

令和元（2019）年度 家庭教育支援プログラム指導者研修③ 実施報告

実施日：令和元年7月3日（水）

【午前の研修】

○ 講話「思春期の子どもとの課題と保護者の対応」



栃木県連合教育会教育事業部 教育相談担当 柴 一彌 氏
思春期の子どもとその保護者に関わってこられた柴先生から、「思春期」とはどのような時期なのかについて、お話しいただきました。河合隼雄氏の「思春期はさなぎの時代」との言葉をもとに、思春期の重要性について説明くださり、保護者を含め大人はどう対応することが良いのかを、思春期の子どもの心情に寄り添いながら示してくださいました。

講話の中で、班ごとに協議する場が設定され、受講者は講話の内容を協議を通してふりかえることで、思春期に対する理解をより深めることができました。主体性や自発性を促す言葉かけの一つとしてリフレーミングを挙げ、言葉かけによって与える印象と影響の違いについて柴先生からお話しいただいたあと、受講者は協議を通してどのようにリフレーミングできるかを考えました。

【午後の研修】

○ 説明「思春期版家庭教育支援プログラムとは」

栃木県教育委員会事務局生涯学習課 副主幹 和久 真

思春期版家庭教育支援プログラム作成の背景やプログラムの内容、そして、プログラムの実施にあたっての説明を聞き、受講者は親学習プログラムに対する理解をさらに深めました。

多くの保護者が集まる機会を生かし、学習・交流の場を効果的に提供できるよう、本プログラムが作成されたこと、思春期の子どもの特徴に合わせたテーマを設定していること、そして、実際にプログラムを活用している学習の様子についての説明を通し、思春期の子どもとの家庭教育についても、地域の方が支援に関わる意義を確認できました。



○ 演習「プログラムの体験Ⅱ」



上都賀教育事務所ふれあい学習課

芳賀教育事務所ふれあい学習課

塩谷南那須教育事務所ふれあい学習課

那須教育事務所ふれあい学習課

社会教育主事 神山 幸江

副主幹 上野 竜一

社会教育主事 加々美 仁実

副主幹 荒井 佳子

思春期版家庭教育支援プログラム「我が子は思春期真っ只中！～思春期の子育ては戸惑いや悩みの連続です～」について、受講者は、思春期の子をもつ保護者の設定で体験しました。講師4名がチームを組み、ワークを分担して展開しながら、ファシリテーターとしての進行上のポイントについてその都度説明を加えました。講師の説明の中で、「講座で行う際は、こういうことを意識して言葉をかけています。」「この資料については、この説明を最初に押さえてから内容に入ります。」といった、経験に裏付けられた情報が紹介されました。受講者はプログラムを進行する上での具体的なポイントを知ることができ、ファシリテーターになる際の留意点などについて、実感を伴いながら学べました。

☆受講者の声（アンケートから）

- ・「思春期の子どもとの課題と保護者の対応」について拝聴し、改めて「さなぎ時代」の関わり方が大切であることを実感しました。午後の演習もとても楽しく勉強になりました。
- ・ワークの進め方のポイントなど、とても分かりやすかったです。

研修内容の詳細に関するお問い合わせは栃木県総合教育センター生涯学習部まで
TEL:028-665-7206 e-mail:skc-syougai@pref.tochigi.lg.jp